

**【テーマ7】 国立大学法人長崎大学  
「小学校における発信型スキルを育成する指導法と評価に関する研究」**

## 調査の概要

### ◆課題認識

- ・養成課程においては、発信力、とりわけスピーキング力の指導が期待通りには機能していない現状がある
- ・三つの観点により見取る評価技術の蓄積が養成課程ではそれほどない

### ◆調査研究の目的

- ・コアカリキュラムへの養成課程での取り組みの度合いを明らかにすること
- ・スピーキング力を評価する方法の具体を、パフォーマンス評価を通して養成課程へ還元すること

### ◆調査研究の方法

- ・養成段階で習得すべき評価技術を可視化する  
→Can-Doの達成化

### ◆調査研究校

- ・長崎県佐世保市吉井北小学校

### ◆現状

- ・評価の指針：令和2年1月中旬より伝達講習の開始
- ・学校現場への浸透：  
各地域に散発的に設置されている「外国語部会」で評価方法の具体が検討された後、各小学校へと浸透するには数年かかる
- ・学級担任側に評価指標に関する主体性が欠けている

## 取組のポイント・成果

### ◆取組のポイント

- ①養成課程におけるコアカリキュラムへの取り組みのアンケート調査
  - ・小学校教員養成課程のコアカリキュラムに関する認識度合いを明らかにする
  - ・コアカリキュラムへの具体的対応の如何を調査
- ②養成課程におけるスピーキング・スキルの指導・評価への取り組み
  - ・評価項目が公表された段階での「指導と評価の一体化」への再認識を促す
  - ・これまで評価を行わなかったスピーキング力（の一部）を、パフォーマンス評価等によって評価を行う具体例の提示
- ③養成課程における英語力の増進への取り組みと大学全体の取り組みとのリンク状況
  - ・英語力の養成を大学全体の取り組みとどういう形でリンクさせているかの調査

### ◆成果

- ・養成課程のコアカリキュラムには、対応が十分とは言えないまでも行われているが、具体性に欠ける点があるということが分かった。
- ・小学校では、スピーキング力の指導・評価という点について、共通の到達目標が十分共有できていない現状があったが、その現状が一方で養成課程で習得させなければいけない具体的な指導・評価スキル等が明らかになった。

## 今後の課題

### ◆養成課程に資する指導・評価への支援

- ・大学と教育委員会・教育センターとの連携・協力により、支援を継続させる
- ・小学校現場で要請される具体的指導・評価スキルの養成課程への還元

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イー②については、文部科学省において公表する場合がある。